

4

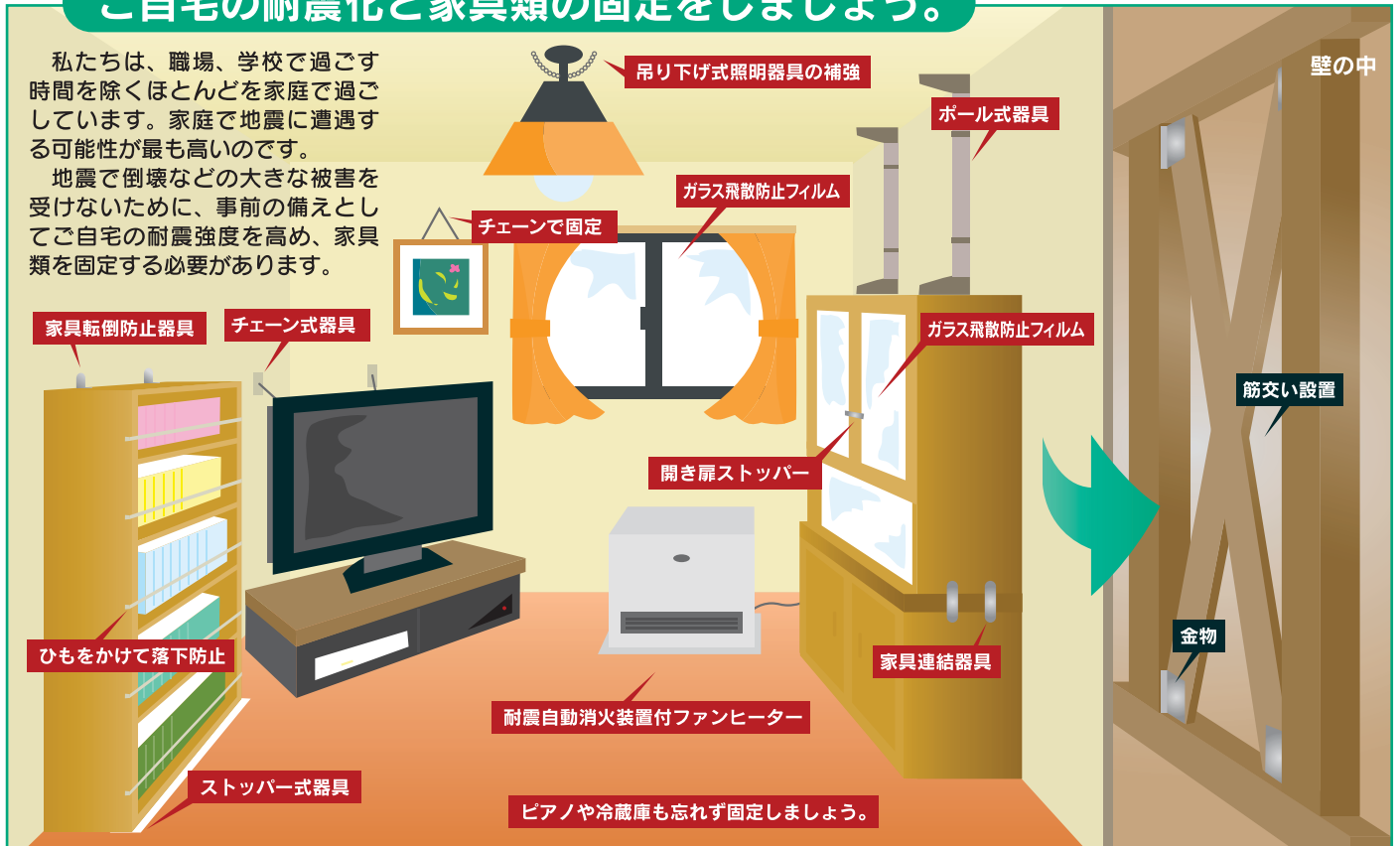
家庭・地域の地震対策

地震に限らず災害対策は、「自助」（自分の命は自分で守る）、「共助」（近くの人でお互い助け合う）、「公助」（県や市町村、消防、警察が災害対策を行う）の取組みを連携させながら、それぞれの立場で進める必要があります。この機会にご家庭の地震対策を点検していただき、対策を進めていただくよう県民の皆さんのご協力をお願いします。

ご自宅の耐震化と家具類の固定をしましょう。

私たちは、職場、学校で過ごす時間を除くほとんどを家庭で過ごしています。家庭で地震に遭遇する可能性が最も高いのです。

地震で倒壊などの大きな被害を受けないために、事前の備えとしてご自宅の耐震強度を高め、家具類を固定する必要があります。



感震ブレーカーの設置により電気火災を防ぎましょう。

■ 感震ブレーカーとは

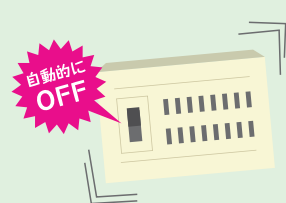
感震器で感知した地震信号が設定値以上になった場合に、配線用ブレーカーまたは漏電ブレーカー等を遮断するものです。

■ 電気火災を防ぐ 阪神・淡路大震災…火災原因の約60%は電気でした。

地震後の火災の多くは電気が原因です。

停電復旧に伴う火災を防ぐためには、避難時にはガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とさなければなりません。ですが、この事を実行する為に、建物内に戻ったり、長居する事自体が危険につながります。

ブレーカーを遮断する感震ブレーカーの設置は、地震後の火災を防ぐ為にとっても有効です。また、ご近所ぐるみで設置する事で、地域防災にもつながります。



■ 電気火災の原因

1 器具の破壊・破損による直接発火

- ・電気スタンド・電気コンロ等、器具が可燃物に触れて発火
- ・ショート・スパークによる発熱・発火



2 通電状態等による発熱・発火



3 再送電時による発熱・発火

